

子どもの「こころ」が揺れ動く「8月の終わり」に
ハートキャッチ週間 8月24日～9月6日

夏休みが終わりに近づくと、子どもたちの心は揺れ動くことが多くあります。「揺れ動く」ことは、決して悪いことではなく、自身の心に「ポジティブ」にも「ネガティブ」にも向き合うことができていることです。

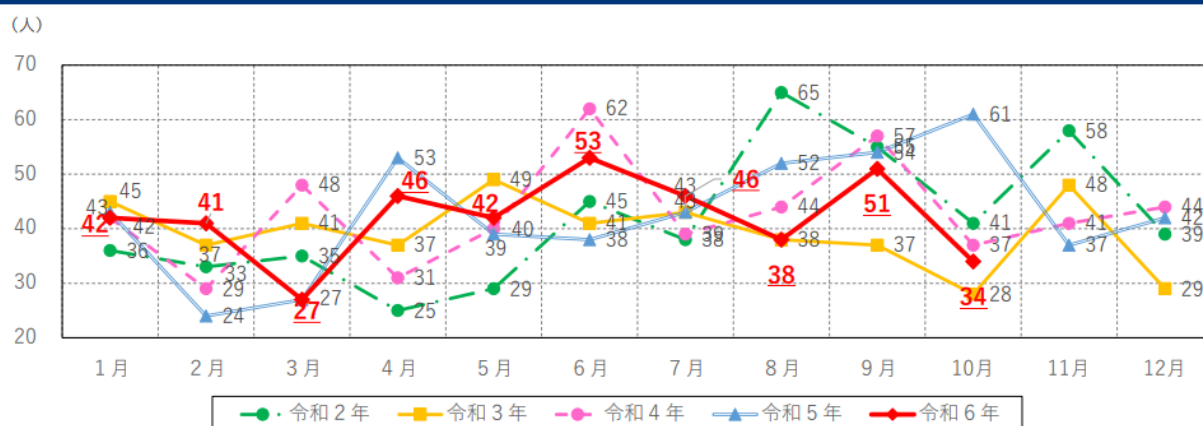
その中で、子どもは「ネガティブ」な感情を様々な形で表現することがあり、それを私たち大人が「どのようにキャッチ」するかが大切になる時期です。

全国的に、9月1日は子ども(高校生を含む)の自死が統計的に多くなっており、小学生・中学生・高校生ともに年間を通じて9月が最多となっています。

厚生労働省の調査によれば、要因の多くは、「小学生」及び「中学生」では、自死の原因・動機において不詳の割合が高いものの、「家庭問題」を原因・動機とする割合が高く「家族からのしつけ・叱責」の割合が高く、女子は「親子関係の不和」がこれに次いで高くなっており、「学校問題」では、男子は「学業不振」、女子は「その他学友との不和」の割合が高くなっている。「高校生」では、「健康問題」の割合が高く、「学校問題」では、「学業不振」及び「その他進路の悩み」の割合が高くなっています。

小中高生の自殺者数の最近の動向（月別総数）

令和6年11月15日現在



引用:文部科学省 HP

(裏面につづく)

西脇市青少年問題協議会では、家庭・地域・学校など、子どもを取り巻く大人が、子どものころに気づく「ハートキャッチ週間」を、8月24日～9月6日としています。

家庭では



(子供の様子の変化の例)

- 顔色が悪く、元気がない。 ○腹痛を訴える。
- 食事の量が減ったり、食べない。 ○衣服が破れたり汚れたりしている。
- 極端に無口になる。 など

学校は



○8月下旬に、不登校傾向にあったり、過去に学業に不安を抱えたりした生徒に対し連絡を行い、2学期当初の学校生活や家庭生活の見通しを共有し、不安軽減につなげたり、意欲向上の支援に努めます。

生徒にとって、学期の変わり目はネガティブなものだけとは限りません。
新しい自分をスタートさせることのできる成長のきっかけの時期でもあります。
子どもを「見守る」ということは、「放任」ではありません。
見守るという行為は、「心配が増し」、大人のエネルギーが必要で、しんどいものです。
しかし、それ以上に、子どもたちは多くのエネルギーを使って
自分のことと向き合います。
大人、それぞれの立場は違えど、子どもを真ん中にして歩みたいものです。



【黒田庄中学校 校訓】

健やかで うるわしく 和やかでよく働く 自力でなしとげる